

## 旭モールディング株式会社

TEL.03-5855-3560 FAX.03-5855-3630  
URL <https://www.asahimolding.com/>代表者: 代表取締役 福田 晴通  
所在地: 〒116-0012 荒川区東尾久5-2-1  
資本金: 3,200万円  
従業員: 20人創業年: 大正10年  
業種: プラスチック製品製造業  
事業内容: プラスチック製品の設計・射出成型・加工・  
組立、積層成形ブロックL-cubeの製造・販売福田 晴通  
代表取締役

## 一歩先を行く「射出成形のパイオニア」

大正10年の創業時より、小間物(頭飾品)や婦人ボタンを製造販売してきたが、プラスチック産業が黎明期にあった昭和25年に米国製の射出成形機をいち早く導入して、プラスチック成形事業に進出。以来、今日まで70年余、射出成形専業に徹し、熱可塑性樹脂製品のパイオニアの道を歩む。

プラスチック産業が成長した昭和時代には、東京都足立区と茨城県猿島郡に生産拠点を設け、顧客の多様な仕様に応える独自の製品づくりの体制を整え、信頼を獲得し、業容を拡大した。現在までに、精密測定器、医療機器、自動車、アミューズメント関連分野で顧客層を広げてきた。

## 状況に応じた生産効率を推進し顧客ニーズに対応

平成14年に現・代表取締役の福田晴通氏が3代目として経営を引き継ぎ、「開発・設計→試作品製作→金型製作→射出成形(量産)→印刷→組立→検査→出荷」という2次加工までの一貫生産体制の構築をはじめ、経営革新に取り組んできた。しかし、昨今の中小企業の製造業を取り巻く環境は非常に厳しく、国内工場の自動化の遅れ、人口減少による人手不足、加えて新型コロナウイルスの影響による国内外需要の減少、海外からの材料・部品の遅延や生産調整も相まって、プラスチック業界も深刻な状況にある。このような中、会社存続のために、令和3年に人事戦略を見直し、令和4年には「DXを推進した工場の改革」を決意した。新規設備を導入し、IoTやITを活用した現場の見える化、製造現場の自動化、品質管理の向上の推進、業務負担の軽減、生産ロスの削減、働きやすい現場の推進、などに取り組むとともに、更なる顧客ニーズに応えるため、全社一丸となって品質・納期・コスト面を強化し、顧客満足度向上を推進する。

## 回 主な保有設備

射出成形機(11台)、スカラ型ロボット、3D-CAD、横走行取出口ロボット、画像寸法測定機、シルク印刷機、クリーンルーム、アニールボックス、各種検査設備

## 回 主な認証・実績等(積層成形ブロックL-cube)

- ・「第4回荒川区新製品・新技術大賞」最優秀賞受賞
- ・特許: 樹脂成形品の製造方法及び樹脂成形品の製造装置(第6259505号)
- ・商標: 「積層成形ブロックL-cube」(第6121722号)

## 業界待望の「樹脂製肉厚板」に脚光

平成24年にMA C Cプロジェクトに参画し、会員企業との産産連携や大学との産学連携を推進して、初の自社製品「積層成形ブロックL-cube」を開発した。平成25年度「ものづくり補助金」の採択により開発を始め、平成27年には東京都に経営革新計画の承認を受けた。本製品は、量産予定の樹脂材料で作る切削用ブロック。開発当時、プラスチック業界から、「業界の救世主、待ち望んでいた画期的製品」と注目を集めた。当社では、バリエーション化を継続して推進しており、令和3年秋にはPLA、PBAT(植物由来の生分解性樹脂)、結晶性の難密着性のLCP(スーパーエンブラ)、春にはPA、PBT(汎用樹脂)などの積層ブロック化に成功。これまでに、下記に示す樹脂ピラミッド図(系統図)の実績がある。今では、本製品から切削することで金型製作前に正しいスペック評価ができるという利便性が浸透し、様々な分野から引き合いがあり、順調に売り上げを伸ばしている。

- ▶ スーパーエンブラ×非結晶性  
PPA PES PEI PAR PSU PPSU
- ▶ スーパーエンブラ×結晶性  
LCP(1) LCP(2) PA12T PPS
- ▶ 汎用エンブラ×非結晶性  
PC M-PPE COC PC-ABS PPO COP
- ▶ 汎用エンブラ×結晶性  
PA6 PA66 PET PBT PA(MXD6) POM TPX
- ▶ 汎用樹脂×非結晶性  
ASA ABS HIPS TPS AS AES PS(GPPS)  
TPU IO PMMA
- ▶ 汎用樹脂×結晶性  
PP HDPE TPO PMP MDPE LDPE
- ▶ 植物由来の生分解性樹脂  
PLA PBAT

射出成形のエキスパート集団として顧客の  
付加価値を創造する提案型ビジネスを展開

顧客ニーズに応えるため、生産管理を徹底し、工場のオートメーション化を推進し、生産効率の向上を推進している。現代表取締役と工場長(後継者)の二人三脚で、グローバルな視点で常に技術革新にチャレンジし、品質にこだわり、受注生産と自社製品の2本の柱でビジネスを展開する。